

重点施策8 人権文化の根づくまちづくりをめざし、あらゆる 差別、偏見を解消するための人権・同和教育の推進

【施策方針】

日本国憲法は、日本国民に総ての基本的人権の享有を認め、法の下に平等であることを保障している。この法の精神を人権・同和教育実践の中で養い、差別のない明るく住みよいまちづくりを推進するため、生涯学習の観点に立ち教育条件の整備と推進体制の充実、人権尊重の意識の高揚を図る啓発活動並びに人権に関する総合的な学習活動の推進に努め、人権啓発課とともに同和問題をはじめとするあらゆる人権問題解決に努める。

【実施状況】

(1) 主な施策・事業

- ① 市人権・同和教育研究大会の開催
- ② 人権問題学習講座の開催
- ③ 連合子ども会交流事業の充実

(2) 施策・事業の実施状況

① 市人権・同和教育研究大会の開催

2月16日(土)に、市人権・同和教育研究大会が開催された。午前中は、「就学前教育、社会教育、家庭教育」「小学校教育、行政・企業・福祉会館等」「中学校・高等学校教育、行政、企業、福祉会館等」の三つの分科会が行われ、午後は全体会として市民約800名が参加して、小・中・高校生と一般の代表による人権作文の発表後、ヒカリカナタ基金代表の竹内昌彦氏による「私の歩んだ道」～見えないから見えたもの～と題した講演が行われた。

② 人権問題学習講座の開催

18年度までは、2地区公民館で4回ずつ計8回開催していたが、開催地区公民館の負担軽減と参加者の固定化を防ぐため、19年度から4地区公民館で2回ずつ計8回の開催に変更し、30年度は松蔭、大島、千丈、喜須来の4地区公民館において行われた。地域の希望を取り入れ、地域の実情に応じた学習講座の開催を心がけることにより、多数の方に参加していただくことを目指して、外部講師や生涯学習課から社会教育指導員を派遣し講座の充実に努めた。

③ 連合子ども会交流事業の充実

毎年、夏休みの初めに市連合子ども会交流会を開催している。この会を通して、普段顔を合わせる機会の少ない他の地区(校区)の子ども同士が、仲間意識をはぐくみ、お互いを尊重し合い、人権感覚を磨くことができている。30年度は、47名が参加し、午前中は中央公民館保内別館において工作やゲームで親睦を深め、昼食後、喜須来小学校のプールで水泳を行い、子どもたちの交流を深めることができた。

【事務事業点検評価委員意見】

- 市人権・同和教育研究大会では、市内外から毎年多くの参加者があり、人権・同和教育に対して真剣に研修する機会となっている。午前中の分科会においては、学校関係だけでなく、公民館や各種団体から多様な報告があり、研究協議も充実したものとなっていた。
人権作文発表については、近年、児童生徒だけでなく一般の方にも発表をお願いしている。今年度は、介護職員の方に発表していただき、大変好評であった。また、ヒカリカナタ基金代表の竹内昌彦氏の講演は、視覚障がいにも負けることなく、途上国の視覚障がい者の自立支援にまで力を尽くされている内容で、非常に心を打たれるものであった。参加者アンケートの評価が高く、全体的に充実した大会であった。今後も、内容の充実した大会にしてほしい。
- 地区公民館で実施する人権問題学習講座は、多様な内容・講師により、充実したものとなっている。ただ、指定4館については、人権問題学習講座を年2回実施するため、ブロック別人権講演会への参加や、近隣公民館との共催によって実施されることもあった。今後も、生涯学習課や人権啓発課との連携を深め、情報を共有し、充実した研修にしてほしい。
- 連合子ども会は、市内の子どもたちが、共に過ごしながらか仲間意識を深める良い機会となっている。最初に仲間づくりのためのゲームをし、工作や共に食事をしたりすることで交流が深まり、水泳の際などには、上級生が下級生に教える姿も見られるなど、縦のつながりもできてきている。今後も工夫を重ねて継続して行ってほしい。

【自己評価】

- 八幡浜市人権・同和教育研究大会については、毎年1,000人近い市民が集い、人権問題を解決するために学習する場として有意義な大会と考えている。特に今回の竹内昌彦氏の講演については、参加者からの評価も高く好評であった。今後も参加者の意見を取り入れながら分科会・全体会共に多くの市民に参加していただける大会になるよう努めていきたい。
- 地域での人権問題学習講座については、参加者の底辺拡大に力を注ぎ「さらなる一歩」を踏み出せるよう、人権啓発課、関係団体とともに今後の講座の取り組みを考え、より一層の推進に努めていきたい。
- 連合子ども会交流事業については、午前中の工作ではオリジナル時計を作成し、それぞれ個性豊かな作品が出来上がっていた。また、午後からは例年伊方の室鼻プールで水泳を行っていたが、前月の水害により利用出来なくなった。急遽喜須来小学校のプールで行うこととなったが、参加した子ども達も学校や学年の垣根を越えて楽しんでもらったと思う。今回の交流事業でも短時間ながら子どもたちの成長を感じることができたことから、今後も関係部署と連携し、この事業を継続していきたい。